

# ウクライナ緊急支援の1年

## はじめに

2022年2月24日に突然始まったロシアによるウクライナ侵攻は1年経った今もまだ終わりが見えない。ウクライナのチェルノブイリ原発事故被災者を33年間にわたって支援して来た私達にとって、この度の戦争はウクライナの人々の命と未来を奪う許しがたいものである。この一年間の緊急支援を振り返り、多大なご支援を下さった皆様に感謝の報告をさせていただきます。

## (1) 支援の始まり

ロシアによるウクライナ侵攻から3日後の2月27日に、「ウクライナ危機に関する緊急声明」を日本語、英語、ウクライナ語、ロシア語で発表。関係各国の大使館や外務省、これまで支援いただいた団体などに送った。以後、ロシアによるチェルノブイリ原発占拠や、永年お付き合いしてきた、ジトーミル25番学校や成人病院の爆撃などの情報が入り大きな衝撃を受けた。ウクライナの人々はチェルノブイリ事故の時と同様、医療機器や医薬品が必須となり、3月7日に緊急支援のお願いを全国に発し、支援を開始した。



3月4日の爆撃で破壊された25番学校

## (2) 第一便はドイツ経由で物資を送る



戦争が始まると日本からウクライナへ救援物資を直接送る事は出来なくなった。偶然、私たちが永年支援して来たジトーミル州ナロジチ地区病院に、ドイツのNPO「アクション・チェルノブイリ」も支援している事が分かり、共同でウクライナ支援を始めた。

3月25日、医薬品など900Kgを積んでドイツを出発するアクション・チェルノブイリのメンバー達。右端が代表のJ.ツイーグラー医師。



第一便の支援で無事出産できた妊婦と赤ちゃん  
爆撃を受けたコーラスティン地区病院にて

### (3) 救援物資を受け取った人々

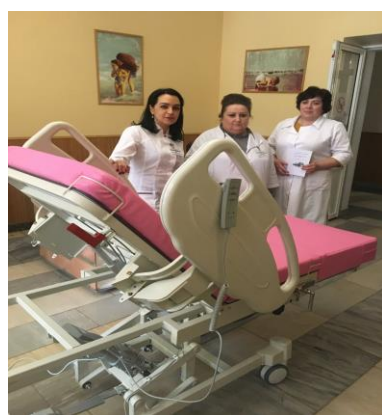


事故処理業者協会の  
ボリス・チュマク代表

粉ミルクを受け取った親子



元チェルノブイリ原発職員



産科病院に贈った出産用ベッド



ジトーミルに届いた第4便と運んだ消防士たち  
(中央はY.ドンチェヴァさん)



ナロジチ地区中央病院に届いた第3便



手術室用照明器具を受け取った  
マルイン市立病院

#### ウクライナ緊急支援のまとめ (2022年3月~12月)

- 寄付金：個人 672 名、団体 65 団体 ●寄付総額：20,523,787 円
- 外貨送金： (10回)：計 11,630,736 円
- 支援先：ナロジチ地区中央病院、州立周産期センター、小児病院、事故処理業者協会、チェルノブイリ避難者団体ゼムリャキなど 18 病院・団体